



〒 242-0007 大和市中心林間 3-16-12 グリーンコーポ中央林間 107

電話 / Fax 046-272-8980 Email: toiwase@edventure.jp URL <https://edventure.jp/>

## 学校を取り巻く状況を俯瞰的に整理してみる

学校教育にかかわる課題の現在の深刻さは、それこそ戦後教育の歴史の中では群を抜いているのではないだろうか。本当に先が見えない中、現場の先生方はそれでも子どもたちに向き合っている。そんな中、「先生のなり手がいない」などと聞くと、学校現場は将来どうなってしまうのだろうという強い不安に襲われたりもする。

学校教育に関する課題は大きく分ければ二種類になる。一つが教育行政などの学校の外側（上？）から発信されてくるもの。現在でいえば、英語教育の導入や PC をさらに活用するための GIGA スクール構想などなど、数えればその多さに驚くだろう。変わったところでは、高校で金融教育が義務化され、資産形成の授業が展開されている。こうした金融教育などは、なんで？と思う人と、そりゃそうだ！と納得する人に別れるのかもしれないが、少なくとも文部科学省は「義務化」した。

もう一つの課題は、「学校現場の中で表出し、現場が強く意識する」課題である。その筆頭になるのが「いじめ」や「不登校」であり、これらは先生方の努力にもかかわらず、なくなるところかますます深刻化している。こちらの課題の中には、「保護者対応」も含まれてくるだろう。夕方の職員室は学校の電話が空くの待つ先生でいっぱい。その日にあったことで、保護者に連絡が必要なことを伝えなければならぬからだ。共働きの家庭が増え、仕事から帰ってくる時間に電話するしかない。「明日にしよう」という訳にはいかないのだ。子どもの口から伝わるよりもできれば早く連絡したい、誤解を生まないためにも。そんな思いがつのる。

これらの教育課題は、全くベクトルの違う二種類のものがあるように考えられる。そして私たちは、今までこれらをそれぞれの課題として認識し取り組んできた。しかし、違ったベクトルに見えるこの二種類の教育課題も、もう少し大きな視点から整理すると、実は共通する背景を持っていることが見えてきたりする。このことは、これまでの Ed.ベンチャーの活動の中で紹介されたり、みんなで論じたりしたこととも重なるが、今回は学校教育を取り巻く大きな社会的な動向として、改めて整理しておきたい。なぜなら、あまりにも現在の学校が追い詰められており、その出口が見えないからこそ、学校を取り巻く状況を客観的に見ていく必要がある、と考えるからである。加えてもう一つ。この後に整理しようとする社会的な動向は、実は「子どもたち」が出会っている現実である、ということである。「子どもたち」が出会っている現実社会を前に、私たち学校教育は、「子どもたちが必要とする新たな何か」を模索しなければならない時に来ているのではないのだろうか、と思うからである。その「新たな何か」は決して「GIGA スクール構想」などではないはずだ。

さて、ここで状況を俯瞰するための手がかりとして、ジグムント・バウマンの「リキッド・モダニティ」という考え方を取り上げたい。

「リキッド・モダニティ」とは、「液状化する近代社会」と訳される。今まで崩れるとは思われてなかった社会構造や、社会規範、社会的な関係性が液状化するように壊れていくというのである。バウマンは、その特徴に次の4つをあげている。

- 個人の選択や行動の自由を制限する地域や共同体からの規制(手かせ・足かせ)が溶かされていく。
- 今までのような個人と他人のつながりや、個と集団のつながりが失われていく。  
そして、自分対他者の構図が生まれる。
- 伝統で「前例」といったものは役に立たなくなる。
- 責任は、すべて個人に帰せられる。

そしてこうした中で生きる人々は、アイデンティティの揺らぎを抱え、「自分探し」にいそしむようになる。なおかつ、自由な選択から逃れたいという願望までも内に抱えるようになるのである。

どうだろう？結構思い当たることがあるのではないだろうか。「自分対他者の構図」は先ほどの例でいえば、「保護者対応」の背景のようにも感じるし、「責任は、すべて個人に帰せられる」なども、この頃は、先生方が仕事上の賠償保険に加入していることなどにも重なるのかもしれない。組織が責任をとってくれるとは、そもそも思っていないからだ。

バウマンのいう「リキッド・モダニティ」は、現在の社会形態の上に成り立っている。それは

「新自由主義」である。新自由主義が地球を覆い、我々の生活の隅々まで浸透することを見越して書かれたものである。

新自由主義は皆さんも聞いたことはあると思うが、経済学上の考え方であり、市場原理を評価し、経済活動を市場原理にゆだねるべきであり、それが成長や発展を生むというのである。この考え方は、国家による富の再分配を目指す「社会民主主義」などとも対立する考え方である。

この新自由主義が世界を席卷し、無限とされていたグローバルな世界は、今は狭い、奪い合いの場へと変化した。結果、経済第一主義の考え方は貫徹され、教育の世界も経済界の動きにあわさなければいけなくなっている。金融教育などはまさにその例だ。バウマンが予言したように、人々はいつも「個人」として自分だけの判断で行動し、競争に勝たなければならない。そんな世界になってしまった。以前に Ed.ベンチャーで講演もして下さった東京大学の本田由紀先生が言っている、学校の「垂直的序列化」と「水平的画一化」はこうした背景から生まれてきている。画一化することが、平等な競争のスタートラインだということだが、それは単なるごまかしである。しかし、その裏側には、新自由主義経済によって生まれた経済格差や、社会からの孤立といった深刻な問題が広がっている。子どもたちの家庭それぞれだけでなく、学校教育そのものまでもが、新自由主義のもとにあるのだ（教育の理想は、経済的なものではないはずなのに！）。いじめや不登校は、児童生徒それぞれの個人の問題だろうか。子どもたちが孤独を感じるとしたら、それはその個人の問題なのだろうか。子どもたちは、今まで以上に競争に駆り立てられているのではないだろうか？それは、子どもを育てるといふあるべき姿から、どんどん遠くなっているような気がする。



ついこの前の新聞に、リニア中央新幹線のトンネル掘削工事の影響で、岐阜県瑞浪市で井戸が枯れたり、ためいけの水位が低下して底がひび割れている、といった報道があった。JR 東海は、トンネル工事が原因だろうと認めながらも、工事は継続すると決定している（その後中断の報道あり）。変なことがあるもんだ。「環境に影響ない」と言って始めた工事なのに、影響があっても止めることはない。「リニア中央新幹線」にとっては、少々の環境破壊などは小さな問題なのだ。賠償金でもつかませて黙らせればよいと思っているのかもしれない。しかし、そもそもリニアなんて乗り物が必要なのだろうか。そんなに早く東から西へ移動しなければならないのだろうか。まさに新自由主義の理念が貫徹されている一例なのであろう。しかも、日本では学校で政治的な話題を取り上げてはいけないことから、その地域でため池の水が枯れたことが学校教育で取り上げられることが多分ないだろうことも、冷静に考えると異常ではないだろうか。新自由主義の流れは今も強い。マイナ保険証の問題などもその類である。

友達が競争相手。クラスにいても孤独。自分自身が何者かわからない。授業の中身も文科省や経済界が言ってる内容ばかり。何も知らなくていとばかりに、政治的なことが語られることもない。友情や青春なんて言葉は、もうとっくに死語！・・・バウマンの予言は学校現場においても当たっているのだ。

ここまで整理してくると、「ではどうすべきか」という大きなテーマが浮上してくる。子どもたちは何を求め、何を私たち大人は提示するべきなのか。その中の一つが「平和」であるとは思うのだが、それ以外の模索はこれからである。是非、皆さんとともに、一生懸命模索していきたいものである。

## これからのEd.ベンチャーの学習会

### ●理論学習会@大和市シリウス

学習会 6月15日(土) 13:30~15:30 子どもが戦争と平和への理解を深めるためには

### ●授業研究会@大和市シリウス

学習会 6月15日(土) 16:00~18:00 地方の学校と都市部の学校

### ●インクルーシブな社会を目指す学習会@大和市シリウス

学習会 6月4日(火) 19:30~21:00 講師：竹本弥生氏(県立綾瀬高校前校長)

インクルーシブ教育実践推進校から見るインクルーシブ教育のこれから

事例研究会 7月4日(木) 19:30~21:00

中学校におけるインクルーシブの実践

報告者：森尾宙氏(座間市中学校教諭)・藤本健氏(座間中学校教諭)

### ●外国人の子ども理解のための学習会@大和市シリウス

講演会 8月6日(火) 13:00~16:00

外国人の子どもの対話による自己形成—国際教室の実践を通して—

講師：小林加奈氏(大和市小学校教諭)・藤木仁美氏(座間市中学校教諭)

◆理事のひとつ◆新しい職場では、周りから子どもたちの元気な声が聞こえてくる。その声に、心が洗われる。少し前までは当たり前のように過ごしていた懐かしい感覚。その心地よさに浸っている。一方で伝わってくる、子どもたちを取り巻く苦しい状況。その過酷な現実が胸が痛む。子どもたちの笑顔が当たり前にあるのではないと、痛感させられる。もどかしさを感じることもあるが、その状況を打開できるよう、自分の役目を全うしていきたい。(IT)